

ホタル見物

小林 まもる

いつのまにか病み付きになる

進化の傑作のような

ひとときの闇の線描画

浅黄色の光の点滅を

みている人は

何見ていたのか

わからなくなってくる

子どもに見せよう

帽子や網で捕らえようと

無邪気な少年に

なってみたり

今年はどこがいい

あの時あそこがものすこかった

などとたわいない話を

他人事のようにしている

近所の人たち

たしか どこかで見た

懐かしい人たち

見とれてみれば

だれでも

どれでも

いいことになる

争い選ぶ

ことじゃー

なかったのだ

ホタルに吉凶の

生まれ変わりの

明日はなく

おみくじのよつに

草むらの光りにたどり着き

凶はほとんど引かないだろう
子種を残せば死んでいい
はずれくじはほとんどない

どうしてそんなに

ややこしいのだ人間の時間は

近所のひとたちは

人が呆然と見とれるのは

人が病みつきになるのは

光と水と草むらの

ホタルの饗宴

最後の花火

そこにも

生と死のいじましい

争いがみえてきて

見とれていると

隣にいた

さつき夕飯を

一緒に食べて

長い年月連れ立ってきた

人の名前も

記憶の底にふさがれて

とつさに思い出せなくなっていた

いつのまにか病み付きになる

たしか どこかで見た

懐かしい人たち